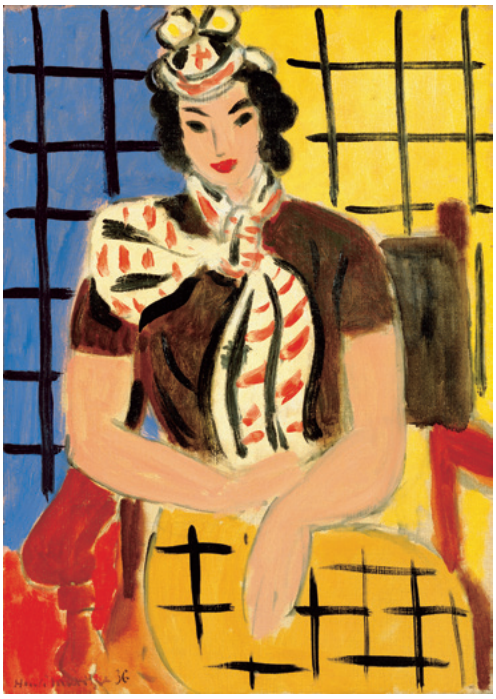
石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第462号　令和4年4月1日発行

師弟の共演―石川ゆかりの作家と巨匠たち―



アンリ・マティス《襟巻の女》ポーラ美術館蔵
―「師弟の共演 ―石川ゆかりの作家と巨匠たち―」より―

花鳥画の世界 ―雪舟筆《四季花鳥図》を中心に―
【前田育徳会尊經閣文庫分館】

古美術優品選【古美術】

名刀と刀絵図【古美術】

優品選【近現代工芸】

金沢美大とその周辺【近現代絵画・彫刻】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- 第78回現代美術展
- 〔参加者募集！〕映画上映会「ディリリとパリの時間旅行」
- 4月の行事予定
- アラカルト　ただいま展示中

企画展（第７～９展示室）

師弟の共演 ―石川ゆかりの作家と巨匠たち―

主催／石川県立美術館　特別協力／北國新聞社
後援／NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

4月24日（日）～5月22日（日）　会期中無休

作家は自分のスタイルを確立していく過程において、様々なものごとを見聞きして吸収します。なかでも、若き日に出会った師の教えは、最も大きな影響を与える要素のひとつでしょう。それはのちに作家活動の芯になるまでの重要性をもったり、師の示唆がターニングポイントになったりする場合もあります。本展で紹介する石川ゆかりの作家たちもそれぞれ、様々な場・様々なかたちで師弟関係を結び、厳しい修行を経て自身の作風を追い求めていきました。

今回はそんな師弟の関係性に注目します。本県ゆかりの作家とその師の作品を同時に展示し、それぞれの作家が受けた影響やその後の新たな創造への軌跡を、豊富なエピソードとともに紹介します。西洋に飛び出した作家、あこがれを込めて私淑した大家への想い、学び舎での得難い時間――。作家たちの足跡は、かれらのバックボーンを支える重要な経験となり、これらひとつひとつの積み重ねが、今日の石川の美術をつくった作家を育てていきました。

さあ、石川の美術形成を担った作家たち、そしてかれらを育てた巨匠たちの共演です。「師弟」をキーワードに、石川の美術の一側面をのぞいてみてください。

◆観覧料
一般：一〇〇〇円（八〇〇円）
大学生：五〇〇円（四〇〇円）
高校生以下：無料
＊2階コレクション展観覧料を含む
＊（　）内は65歳以上の方および団体料金（20名以上）
＊身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

◆関連行事

みどころガイド
担当学芸員が展覧会のみどころを紹介します。
日時：5月8日（日）　13時30分～14時
＊聴講無料、申込不要

土曜講座　13時30分～15時
①5月14日（土）
「系譜でみる近代日本画」
前多武志（学芸第一課長）
②5月21日（土）
「系譜でみる洋画～石川ゆかりの作家たち～」
谷岡彩（学芸員）
会場：石川県立美術館　講義室
＊聴講無料、申込不要

映画上映会「ディリリとパリの時間旅行」
〔吹替版・94分〕
ミッシェル・オスロ監督作品。19世紀末、ベル・エポックのパリで少女が冒険するストーリーを、美しいアニメで紡ぎます。この時代に活躍した作家も多数登場。本企画展に出品の作品や作家も出てきますので、お楽しみに！
日時：5月1日（日）　10時～11時40分
14時～15時40分
＊参加無料
＊要申込。詳しくは本誌7ページをご覧ください

※感染症の状況により内容を変更する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご覧ください。

◆関連の特集展示「金沢美大とその周辺」を、第4展示室で開催します。あわせてお楽しみください。

オーギュスト・ロダン《青銅時代》
原型1875-76年　東京富士美術館蔵
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

藤島武二《うつつ》 1913年
東京国立近代美術館蔵

川端龍子《夢》 1951年
大田区立龍子記念館蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館

花鳥画の世界

―雪舟筆《四季花鳥図》を中心に―

Ⅰ期：3月29日（火）～4月18日（月）
Ⅱ期：4月24日（日）～5月22日（日）

前田育徳会尊經閣文庫分館では、引き続き「花鳥画の世界―雪舟筆《四季花鳥図》を中心に―」を開催します。前号でご紹介した重要文化財の《四季花鳥図》は、今期も引き続き展示されますが、今号ではそれ以外の作品を二点紹介します。

ひとつめは《女三十六歌仙色紙及び雉図屏風》です。草花の茂みに群れる雉の上部に、平安時代から鎌倉時代の女性歌人三十六名を「歌合」として表されています。異なる時代の女性歌人たちを画面上で競わせた遊び心と華やかさを備えた作品で、右に式子内親王・俊成卿女・待賢門院堀川・宜秋門院丹後・嘉陽門院越前・二条院讃岐・後鳥羽院下野・殷富門院大輔・土御門院小宰相・八条院高倉・後嵯峨院中納言典侍など十八名、左に小野小町・伊勢・中務・斎宮女御・右大将道綱母・和泉式部・紫式部・小式部内侍・伊勢大輔・清少納言など十八名の歌と姿が描かれています。

ふたつめは《鷹狩図絵巻》です。加賀藩の御用を務めた狩野派の絵師六代梅田九栄によるものです。春夏秋冬の四巻からなり、Ⅰ期は春の巻を展示、Ⅱ期は夏の巻を紹介します。夏の巻では、川に入り獲物を獲る人々の姿や、屋形船に乗って涼む人々の姿、捕らえた鳥を吊るす舟など、涼やかな川辺での様子が詳細に描かれています。春の景とは異なる光景をお楽しみください。

その他、さまざまな鳥類を記録した《鳥画帖》も、場面替えのうえご紹介します。

《鷹狩図絵巻》夏の巻　梅田九栄

古美術（第２展示室）

古美術優品選

3月29日（火）～4月18日（月）　会期中無休

昨秋、京都国立博物館で展覧会「畠山記念館の名品」が開催されました。室町時代に能登国の守護大名であった畠山氏の末裔にあって、明治時代に金沢に生まれた畠山即翁（一清）は、荏原製作所の創業者であり、茶道と能を愛した近代数寄者のひとりです。その即翁のコレクションを収集する畠山記念館の展覧会の中に、本館所蔵の作品も出品されていました。秋月等観、狩野元信、興以、探幽それぞれが描いた『西湖図』です。昭和三十四年（一九五九）に、石川県美術館が開館するのにあわせ、即翁から寄贈されました。今回の特集では、そのうち探幽による《西湖図》を紹介します。

中国・杭州の西に広がる西湖は、白居易がその美しさを詠んだ景勝地です。遠くに北高峰と南高峰がそびえ、その手前に湖は広がります。湖には蘇堤とよばれる六座の橋がかかり、右手前には山から白堤がつづいています。堤を渡る人々、舟に遊ぶ人々の姿も見え、景勝地の美しさだけでなく、人々の暮らしぶりもうかがえる図です。狩野永徳の孫にあたる探幽は、秋月の西湖図も学んでいることから、西湖は狩野派においても重要な画題であったことがわかります。

その探幽の弟子として特に優れ、活躍していたのが前号にて述べた《四季耕作図》を描いた久隅守景です。探幽のもとを離れ、加賀の地に下りました。本特集にて、探幽と守景、師弟二人の作品をご鑑賞ください。

なお、畠山記念館所蔵の前田家伝来の能装束は、企画展において今秋展示の予定です。

《西湖図》狩野探幽

古美術（第２展示室）

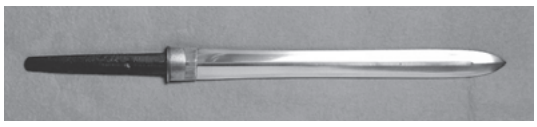
名刀と刀絵図

4月24日（日）～5月22日（日）　会期中無休

今回は、国宝《剣　銘 吉光》（白山比咩神社蔵）と、重要美術品《刀絵図》の全巻公開を主体とした展示です。昨年の特別展「加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―」第一章では、この両者の存在感が際立ちましたが、まさに徳川家と前田家の緊張関係と、そうした歴史の継承を象徴する文化財ということができます。

国宝《剣　銘 吉光》は、一六三三年に三代将軍・徳川家光の養女大姫（清泰院、水戸徳川頼房の子）が、加賀藩四代藩主・前田光高に輿入れした際の持参品です。清泰院が死去した翌年の一六五七年に、嫡男の五代藩主・綱紀が、母の冥福を祈って白山比咩神社に奉納しました。したがって、本剣が緊張関係にあった前田家と徳川家の平和を保った、との見方もできるでしょう。作者の粟田口（藤四郎）吉光は、鎌倉時代の京都粟田口派の刀工のうちでは最も有名で、特に短刀や剣の作刀に優れた手腕を示しており、本剣は、吉光の最高傑作の一つに数えられています。

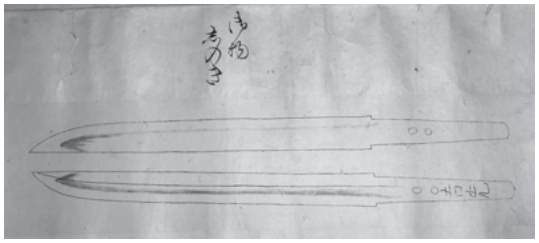
重要美術品《刀絵図》は、刀剣鑑識の参考とするため、必要な点を簡潔に図示したものですが、本阿弥光徳が一五九五年に制作した本巻には、主として豊臣秀吉の蔵刀が収録されています。特に「太閤御物」として名声の高いものなどが、その後の大坂の陣や明暦の大火で焼けたり、消失したりする前の姿で確認できる点でも第一級の史料ということができます。



国宝《剣　銘吉光》白山比咩神社蔵

学芸員の眼

吉光は、室町時代から声価が高まり、今回展示する《刀絵図》では、収録されている四〇口のうち十二口が吉光であるように、豊臣秀吉の蔵刀の中でも大きな位置を占めています。そして、江戸時代には正宗、江ノ義弘とともに三作と呼ばれ、大いに賞用されました。大姫が光高に輿入れした際には、将軍・徳川家光から引き出物として「名物　太郎作正宗」（国宝《刀　無銘正宗》前田育徳会蔵）も下賜されたことは、徳川家がいかに前田家を重視し、また警戒していたかを示しています。こうした名刀の贈答が武家の存亡にかかわる重大事となった背景には、足利将軍家に倣った豊臣秀吉による刀剣の権威付けがありました。徳川家はこれを巧みに利用し、吉宗による『享保名物帳』へと結実してゆきます。



重要美術品《刀絵図》（部分）

近現代工芸（第５展示室）

優品選

4月24日（日）～5月22日（日）　会期中無休

今冬は雪が降る日が長く続きましたが、寒い冬がようやく終わりを告げ、暖かい陽が差し込み木々が芽吹き、黄色から始まり薄いピンク、鮮やかな色彩へと花が咲く春をむかえました。本展示では、春から夏に向かう季節にちなんだ作品を中心に、陶磁・漆工・染織・金工・木工・諸工芸と各分野の作品をご覧いただきます。

皆様に春をお届けするにあたり、梅、桜、牡丹などの花や、春らしい同じテーマで表現された作品など、草花をモチーフにした作品を多く集めてみました。同じ題材であっても、それぞれの作家の目と手を通して表現されると、捉え方や雰囲気がずいぶん違い、受け取る方として鑑賞する楽しみが増します。皿の半分に梅の枝を大きく配してある、北出塔次郎《色絵開春飾皿》。展示の頃にはもう花見の頃は過ぎてしまっているかと思われますが、春といえば真っ先に思い出す桜では、中憲一《爛漫》。咲き誇るあざやかな牡丹を見事に表現した吉田美統《釉裏金彩牡丹唐草文鉢》や、二代松本佐吉《色絵牡丹文大皿》、武腰潤《色絵四方台皿「ぼたん」》、南繁正《牡丹図鉢》など。

今回は陶芸中心に紹介しましたが、ほかの分野の作品紹介はまた次号に。しばらくは当館公式ウェブサイトの所蔵作品一覧で上記の工芸作家たちの作品をご覧いただき、会期が来るのをお待ちいただきたいと思います。

吉田美統《釉裏金彩牡丹唐草文鉢》

近現代絵画・彫刻（第４展示室）

金沢美大とその周辺

4月24日（日）～5月22日（日）　会期中無休

開催中の企画展「師弟の共演―石川ゆかりの作家と巨匠たち―」にちなんだ特集展示です。

戦後石川の美術文化復興を語る上で、現代美術展の開催とならんで金沢美術工芸専門学校（現・大学）の開設は欠くことのできない出来事であり、石川、金沢の土地柄を如実に物語るものです。これらのお膳立てをしたのが、当時の美術作家や新聞人からなる石川県美術文化協会です。この協会が非公式ながら発足したのは、昭和二十年八月十七日。終戦のわずか二日後でした。

協会が当時掲げた目標が三つあり、それは美術館の設立、美術工芸展覧会の開催、美術学校の設立でした。このうち美術工芸展覧会の開催は、第一回現代美術展として実を結び、その年の十月に開催した同展は、約二週間で四万二千人を動員。そして美術学校は翌年の十一月に金沢美術工芸専門学校としてスピード開校し、短大、現在の金沢美術工芸大学へと姿を変え、名だたる美術家を輩出しました。

展示では、金沢美術工芸大学で教えた作家と、学んだ作家をそれぞれ取り上げます。教えた作家では、設立にも関わった彫刻の長谷川八十、日本画の畠山錦成、油彩の高光一也らを紹介します。また、金沢美大に学んだ作家では、初期の卒業生である日本画の平桜和正、油彩の村田省蔵、彫刻の田中昭らをはじめとする卒業生の面々を紹介します。

企画展「師弟の共演」とも相通ずるテーマの本展示を、ご一緒に楽しんでいただければと思います。

高光一也《二人》

近現代絵画・彫刻（第3・6展示室）

優品選

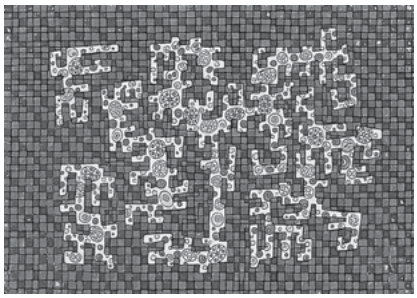
4月24日（日）～5月22日（日）　会期中無休

企画展示室で開催の企画展「師弟の共演―石川ゆかりの作家と巨匠たち―」にちなみ、二階の近現代絵画・彫刻コレクションでは、特集「金沢美大とその周辺」を、「優品選」の日本画分野は、「日本画―学びの系譜―」という小特集を組みました。金沢美大設立以前の日本画家たちの師弟関係や、金沢美大とはかかわりのない師弟関係に焦点を当てます。

油彩分野では芥川龍之介の『蜘蛛の糸』に取材し、鴨居玲が繰り返し描いた《蜘蛛の糸》を展示します。本作では、赤黒い血の池に一筋の糸が垂れ、画面中央の犍陀多（カンダタ）は太い腕をのばしてすがり、周りに罪人が群がる様を描きます。犍陀多を照らす光は慈悲や希望を、波立つ水面は不穏さと罪人の必死さを感じさせます。

また、彫刻分野からも同テーマの清水良治《蜘蛛の糸（芥川龍之介より）》を紹介します。清水は小さな頃に寺でよく聞いたお話として芥川龍之介の『蜘蛛の糸』を記憶しており、本作の制作につなげました。「空中に人体をつくる」をテーマとし、心棒を中心に蝋の手びねりを続けながら苦労してかたちづくったといいます。糸にすがる人体の独特な存在感が見どころです。同じテーマを扱った異なる分野の作品をお楽しみください。

水彩画分野からは、大正から昭和初期まで文展、帝展と入選を果たし、本県出身の洋画家のホープであった伊東哲の抽象画の作品を展示いたします。



伊東哲《細胞(B)》

第7～9展示室

第78回現代美術展

―洋画・工芸・写真―

4月1日（金）～18日（月）　会期中無休

昭和二十年十月に第一回展が開催された現代美術展は、本年七十八回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部　門

洋画（第7・8・9展示室）

工芸・写真（第3・4・5・6展示室）

※金沢21世紀美術館では、日本画・彫刻・書が展示されます。

◆観覧料（金沢21世紀美術館と共通）

	一般	大高生	中小生
当日	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は会員証の提示で団体料金

〔参加者募集！〕

映画上映会「ディリリとパリの時間旅行」

企画展「師弟の共演―石川ゆかりの作家と巨匠たち―」の関連行事として、映画「ディリリとパリの時間旅行（２０１８年）を上映します。ゴールデンウィーク期間中の開催であり、アニメ作品ということで、お子様含めご家族でもお楽しみいただける内容となっております。企画展鑑賞と合わせてお楽しみください！

映画上映会「ディリリとパリの時間旅行」（吹替版・94分）

日時：令和４年５月１日（日）
午前の部：10時～11時40分
午後の部：14時～15時40分
※開場は上映30分前
※今回、友の会先行入場はございません。

会場：石川県立美術館 ホール

定員：各回１００名（予定）
（要申込・定員を超えた場合は抽選の予定）

料金：無料

◆ストーリー

ミッシェル・オスロ監督作品。十九世紀末、ベル・エポックのパリで少女が冒険するストーリーを美しいアニメで紡ぎます。この時代に活躍した芸術家はじめ、当企画展に出品の作家やその作品も登場します！ 映画鑑賞とともに、作家たちや作品を見つけることも楽しみな、美術ファン必見の作品です。

◆申込方法

往復はがきまたはメールでお申込みください。

宛先：往復はがき＝〒９２０－０９６３
石川県金沢市出羽町２－１
石川県立美術館　映画上映会係

メール＝ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

件名：「映画上映会申込」

本文：①参加者氏名（全員分）　②電話番号（代表者のみ）
③参加希望回（午前or午後orどちらでも）

※申込はお一人様１通、５名まで。

申込期間：３月28日（月）～４月11日（月）（必着）

ご参加にあたってのお願い

① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。発熱等体調に不安がある方の参加はご遠慮ください。
② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いいたします。
③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
④ 会場内では会話を極力ご遠慮ください。

アラカルト ただいま展示中

à la carte No.61

重要文化財《四季耕作図》しきこうさくず

六曲一双　各 縦146.0cm 横336.0cm
江戸時代　17世紀

久隅守景　くすみ・もりかげ

生没年不詳

加賀藩は、三代藩主・前田利常以来、文化政策で徳川幕府に優越しようとの気概をもって、名工の招聘や名品の収集に意欲的に取り組んでいました。したがって加賀藩が、幕府の御用絵師・狩野探幽の門下で、高く技量を評価されていた久隅守景に着目したのも自然の成り行きでした。さらに後年守景が探幽の門を去ったとなれば、加賀藩が、幕府に対する文化政策の有力な手段として、守景の画業を支援したとの見方もできるでしょう。

「田園画家」とも呼ばれるように、守景は数多くの「四季耕作図」を描いており、重要文化財指定の本作は、その終着点と考えられます。通常は中国風俗で描かれるところを日本風俗で描き、四季の展開も通常とは逆の左から右となっています。農耕作業の他に、鷹狩りのための鷹の調教や、鵜飼い、納涼、積藁の前で犬と遊ぶ子供など、季節折々の人々の営みが生き生きと描かれている点が、他の作例と大きく異なっています。

画面で特に注目されるのは、冬の場面で年貢の石高を通知する代官が描かれていることです。この場面によって、本作は加賀の風景を描いたものであることがわかります。そこには、加賀藩の画期的な農政改革である改作法の成果を内外に周知させる意図が感じられます。さて、それでは誰がこのような「伝統的画題の革新的継承」を指示したのでしょうか。

江戸時代屈指の学者大名とも言われる、あの藩主が思い浮かびますが、いかがでしょうか。

※画像は右隻、部分

次回の展覧会

令和4年5月28日(土)
～6月19日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊經閣文庫分館	第２展示室
歴代藩主の 甲冑・陣羽織と 加賀象嵌鐙Ⅰ	加賀の工芸

１Ｆ企画展示室(7・8・9展示室) ２Ｆコレクション展示室(3・4・5・6展示室)
第8回日展 金沢展

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
4月4日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

4月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00 年中無休

4月の休館日は
19日(火)～23日(土)

広告
「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？
石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ
郵送配布!! 3,000部発行
ターゲットを狙った 知名度向上
県立美術館発行の 信頼度の高い広報媒体
お問い合わせは ☎092-716-1401
株式会社ポープ
福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q－Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第462号(毎月発行)
2022年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。